

大会テーマ

# 大学教育の『質』をどう扱うか ——評価と多様性——

最近の大学改革論議のなかでは、「質保証」「質評価」「質の向上」等々、教育の「質」が問題にされることが多い。しかし、その「質」が何であるか、という内容まで踏み込んだ議論がなされることはほとんどありません。

大学評価学会第5回全国大会では、このような「大学教育の『質』」の問題に焦点を当て、多様なステークホルダーの視点から社会的ニーズを汲み上げて調整を図りたいと思います。そして、世界と未来の教育を見越した大学教育の「質」について議論したいと思います。

日 時: 2008年3月15日(土) 9:30 受付開始  
～ 3月16日(日) 17:00 終了

場 所: 大阪大学・豊中キャンパス  
大学教育実践センター

(大阪府豊中市待兼山町1-16、TEL:06-6850-6111)

○最寄り駅: 阪急・宝塚線石橋駅下車徒歩約10分  
大塚モノレール泉原駅下車約5分

参加費: 会 員 1500円(学生・院生1000円)  
会員外 3000円、懇親会費 4000円

開催校責任者: 望月太郎(学会理事)

E-mail: taromoch@cep.osaka-u.ac.jp

連絡先: 大学評価学会 事務局

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67 龍谷大学 重本研究室筑付

E-mail: sigemoto@biz.ryukoku.ac.jp



**3月15日(土)**

**10:00～12:00 会員報告**

<第1会場>(大学教育実践センター 共通教育管理講義棟 B-107 教室)

- 1)「大学評価文化の国際比較をめぐる諸問題」 細川孝氏(龍谷大学)
- 2)「地域連携活動と大学の役割」 藤原隆信氏(京都経済短期大学)

<第2会場>(大学教育実践センター 共通教育管理講義棟 B-108 教室)

- 1)「大学コンソーシアムにおける事業評価の必要性」 岩崎保道氏(同志社大学)
- 2)「職員および学生参画に関する『評価-機能モデル』の研究方法について  
——大学内ステークホルダー間調整視点から——」 重本直利氏(龍谷大学)

**12:00～13:30 <昼食休憩、第6回理事会>**

**13:30～14:15 年次総会(B-107 教室)**

**14:30～18:00 シンポジウム(B-107 教室)**

**「大学教育の『質』をどう扱うか——評価と多様性——」**

**<シンポジスト>**

**1) “Innovating quality management**

**of university education” (大学教育の質管理を革新する)**  
ピーター・M・ハーテロー氏  
(オランダ・エラスムス実践哲学研究所)

**2) 「学士課程教育における学習プログラムの改善と質保証」**

山内正平氏(千葉大学)

**3) 「価値創造のための仕事のデザインと評価」**

宮原明氏(富士ゼロックス相談役・元社長、  
国際大学副理事長、関西学院大学理事)

司会・コーディネーター

望月太郎氏(大阪大学)

**18:15～20:00 懇親会(生協食堂4階)**

3月16日(日)

10:00 ~ 12:30 分科会(午前の部)

## 第Ⅰ分科会 座長:村上孝弘氏(龍谷大学) B-107教室

## テーマ:「大学職員の働きがいと評価問題」

&lt;趣旨&gt;

「FDの義務化」に伴って、昨今、教員評価特に教育評価のあり方をめぐる議論が盛んである。そこにおいては、「PCDAサイクル」に代表されるいわゆる「工学的経営学的モデル」の教育現場への導入が現実化されている。このような定量的評価は、職員の人事評価などにおいてもその影響力が大きくなっている。本分科会では、このような職員評価により生じている各大学職場の様々な変化の実態や、個々の職員の現状を報告していただき、「大学職員の働きがいと評価をめぐる問題」について検討を深める契機としていきたい。

- 1)「大学経営における自己評価と認証評価の関係」山崎その氏(京都外国語大学)
- 2)「自律と協働の仕事の創造—大学職員の働きがい—」津田道明氏(日本福祉大学)
- 3)「モチベーションと評価」  
中元崇氏(京都大学)
- 4)「3年目から見た働きがいと評価問題」  
藤田圭子氏(秋草学園短期大学)

## 第Ⅱ分科会 座長:細井克彦氏(大阪市立大学) B-108教室

## テーマ:「国立大学法人化から4年」

&lt;趣旨&gt;

2004年4月に国立大学法人制度が発足して4年が経とうとしています。2008年度は国立大学法人評価委員会の暫定評価の年であり、2009年度には総務省の政策評価・独立行政法人評価委員会の評価があつて、最初の中期目標期間の評価が定まっていくことになります。評価の結果は、運営費交付金の額や組織の改廃、あるいは次期中期計画などに関わってきます。一方、経済財政諮問会議等では次期の中期目標に向けて評価のルールの見直しや大学再編を含む、大学・大学院の在り方に関わる青写真の検討・作成等も要請しており、すでに重要な争点にもなっています。ここ2、3年は各国立大学法人にとって試練の年になることは間違いないといえるでしょう。本分科会では、このような状況認識を持ちながら、国立大学法人が発足するまでの時期に国立大学協会などでどのように捉えられていたのか、そして、現に国立大学法人が発足してからどのような状態に置かれているのかを、報告を元に検討したいと思えます。

- 1)「国立大学法人成立の経緯」  
田中弘充氏(元鹿児島大学学長)
- 2)「法人化で教職員は労働者であることを学んだ」  
長野八久氏(大阪大学)
- 3)「国立大学法人化と教員養成制度の変質」  
山口和孝氏(埼玉大学)

12:30 ~ 13:30 &lt;昼食休憩、第7回理事会&gt;

3月16日(日)

13:30 ~ 16:00 分科会(午後の部)

第Ⅲ分科会 座長:橋本勝氏(岡山大学) B-107教室

テーマ:「認証評価機関を『評価』する」

<趣旨>

認証評価制度が導入されて3年が経過した。本学会では、制度導入期の第2回全国大会(駒澤大学)で制度の内容理解を中心とした分科会を設け、多くの会員の関心と呼んだが、既に多くの大学が認証評価を受けている現時点で改めて制度の意義と問題点を整理し、今後の制度のあり方に向けて議論を深めたいと考え、再度、分科会を設けることとした。話題提供者は3名。大学評価・学位授与機構の荻上紘一氏から「機構」の認証評価を、また、元大学基準協会の前田早苗氏から「基準協会」の認証評価をそれぞれ自己評価・総括してもらおう。九州大学の佐藤仁氏にこの代表的2評価機関を中心に、認証評価機関全体の状況を第三者的に分析・整理してもらおう予定である。フロアからの意見も積極的に受けながら参加者全員で今後の認証評価制度のありようを模索したい。

- 1)「認証評価を自己評価する—大学評価・学位授与機構の認証評価の総括」  
荻上紘一氏(大学評価・学位授与機構)
- 2)「認証評価は質保証足りうるのか—大学基準協会の認証評価の総括—」  
前田早苗氏(千葉大学、元大学基準協会)
- 3)「認証評価機関に対する『評価』の視点について」  
佐藤仁氏(九州大学)

第Ⅳ分科会 座長:熊谷滋子氏(静岡大学) B-108教室

テーマ:「大学におけるハラスメント対策の現状と教育の『質』確保」

<趣旨>

現在、多くの大学においては、セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメントに対して、相談窓口を設置したり、ガイドラインを作成したり、一定の防止対策に取り組むようになってきている。しかし、その対策には、まだまだ不十分な側面があり、被害を訴えても、きちんと対応していない事例もある。今回は、そのような状況を具体的に上げながら、どこにその問題点があるのかを指摘し、どうあれば改善するのか、防止できるのかを考える糸口を探りたい。さらに、ハラスメントを含めた人権侵害問題を大学評価のあり方の前提として考えるべきであることも確認したい。この分科会では、この問題に関心のある、または、悩みを抱える方々と共に、人権を大切に大学づくりのための大学評価はどうあるべきか、語り合っていきたい。

- 1)「アカデミック・ハラスメント案件に対する大学の対応」  
泉谷洋平氏(NPOアカデミック・ハラスメントをなくすねっとわーく)
- 2)「公立大学法人O大学セクシュアル・ハラスメント事件の概要と問題点」  
櫻田和也氏(大阪市立大学)  
事例研究:「被害者からのメッセージ」 [代読]竹内優理氏(大阪市立大学)
- 3)「キャンパス・ハラスメント対応の現状と問題点」  
吉野太郎氏(関西学院大学)
- 4)「大学の非正規雇用・有期研究者の現状」  
一事例から見るアカデミック・ハラスメントの現状」  
吉澤弥生氏(大阪大学)
- 5)「全国の大学におけるアカデミック・ハラスメント対策の現状と問題点」  
御輿久美子氏(奈良県立医科大学)

16:10 ~ 17:00 総括討論 B-107教室